

安城ジャズクラブ  
会長お勧めライブ♪

TRIO' という名にふさわしいトリオ(ドラム・ピアノ・ベース)です。TRIO' の演奏で、至福のひとときをお過ごしください。

# TRIO' Jazz Live



drum:市原靖 piano:福田重男 bass:森泰人

2012/12/1 (土)

Open 18:00 / Start 19:00

会場 花むすび(安城市朝日町)

Ticket 3,500円

【チケット取扱】

- 日新堂書店(安城市御幸本町) Tel 0566-75-2028      ○竹内書店(安城市御幸本町) Tel 0566-74-0511  
○山崎石油(安城市百石町) Tel 0566-76-4887      ○ろくえん市民会館店(安城市桜町) Tel 0566-75-0777  
○花むすび(安城市朝日町) Tel 0566-76-3005      ○丸杉(安城市御幸本町) Tel 0566-76-6261  
○喫茶“古都”(安城市歴史博物館内) Tel .0566-77-7687

【問合せ】

- 事務局 細井(三恵不動産内) Tel 0566-76-6656      ○畔柳 090-3937-9393

おむすび・酒屋  
花むすび

安城市朝日町 24-15

[www.katch.ne.jp/~hanamusubi](http://www.katch.ne.jp/~hanamusubi)

Anjo Jazz Club

主催

安城ジャズクラブ

[www.anjo-jazz.com](http://www.anjo-jazz.com)

素晴らしいです！邦人トリオでこれだけのライブ録音があったとは。うかつでした。プロデュースはドラムの市原康さん。・・・こんなトリオ盤があったというのも見逃してました。本作で5作目とは。

福田さんのピアノは美しくもゴージャス。抒情性もその奥行きははかりしれなくただ、素晴らしい、のひとこと。森泰人さんも言わずと知れたスカンジナビア・コネクションの仕掛け人、多くのヨーロッパアン・ピアニストとのライブでその豊かな音色を堪能させてもらっています。

市原さんのドラムは曲によって全く表情を変えて、時に煽りテンションを高める変幻自在なドラム。うっとりとするような美しさや、ボサのビート等でのトリオ演奏が続く中、まさかの5曲目のフリー演奏。これはちょっと意表をつかれました。本気のフリーですが、その中にも彼らの美学は感じられ、破壊のフリーではないですね。ただ、ロマンチックで美しいだけに終わらない、意気込みと取り組み姿勢が感じられて素晴らしいライブ盤。

・・・ Rachel's Lament 福田さんのオリジナル。  
美しくも陰影のある、魅了されるナンバーですね。この人の中にはあるリリズムやロマンチックな要素、それだけに終わらせないストーリー性やドラマ等が込められています。

やはりこのアルバムは、福田さんのピアノが素晴らしい、とそれにつきるでしょう。ピアノを鳴らし切った演奏で、音の広がり、空間は無限大にも感じられる。・・・強力、お勧めです。日本人プレイヤーのレベルの高さを感じる1枚。  
(ジャズ好きな人のブログより アルバム「TRIO' LIVE」について)

### ♪ 市原康 (ドラム)

1969年早稲田大学在学中、ジョージ大塚氏に師事、同大学スイング&ジャズ研究会、モダンジャズ研究会を経てプロとしての活動にはいる。1975.1-11 渡米。惣領泰則グループ「BROWN RICE」に参加。BROWN RICE メンバーとしてエングルベルト・フンパーディンク北南米ツアーに参加、ラスベガスにレコーディング・他全米で活動。1975.11に帰国後、ジャズドラマー、スタジオミュージシャンとして各種アルバム、映画音楽、CM 音楽のレコーディング、ライブ演奏、コンサート、TV 出演などの活動を続け、現在に至っている。2004.1よりジャズトリオ「TRIO」を結成、レコーディングをし、活動を開始。2004.7 初リーダーアルバム「What Are You Doing the Rest of Your Life / TRIO」(福田重男,Pf、森泰人、bass)をリリース。現在もこのメンバーで活動を続けている。2005.7「TRIO」、二枚目「Love Is Here To Stay」をリリース。2007.3 「TRIO」、三枚目「Come Rain or Come Shine」をリリース。

主な参加アルバム ブラウンライズ、大野雄二、ルパン三世シリーズ、阿川泰子、ソニア・ローザ、松山千春、松田聖子、郷ひろみ、ジュディ・オング、市川秀男、菊池ひみこ、松本峰明、ピチカート 5、木住野佳子、ウォン・ウィン・ツァンジャズトリオ/WIM、中西俊博、伊東ゆかり、久石譲/新日フィルワールドドリームオーケストラ他多数。

・2000.4 役者としての初舞台を踏んで以来「黒鯛プロデュース」5回の公演を行う。  
著作「ジャズ・ドラム」(リットーミュージック)編著(1978)、東京音楽大学作曲科客員教授

### ♪ 森泰人 (ベース)

青山学院高等部在学中よりベースの演奏を始める。当時、NHK交響楽団の首席コントラバス奏者であった、小野崎充氏に師事。青山学院大学に入学直後より、江夏健二(ウォン・ウィン・ツァン)トリオに加わり、「新宿ピットイン」「タロー」「オスカー」等のジャズスポットで演奏を始める。その後、青山学院大学時代は、沖至、坂田明、田村博、井上淑彦等多くのグループでも活動。また、銀座ヤマハが主催していた『リトルジャズコン』を4年にわたりプロデュース。

1981年スウェーデンに移り住み、北欧を中心に活動を始める。1983年には、ジョージ・コールマン・カルテットと北欧〜英国ツアー。また、その頃、スウェーデンに住んでいた米サックス奏者 ボブ・バークのグループに参加。1984年にはリー・コニツとスウェーデンツアー。その他、数多くのスウェーデンのグループでも活躍を始める。1985年には、フルート/サックス奏者アンダーシュ・ハーグベリと二人で、その後テレビやラジオで有名となったデュオグループ『ウィンデュオ』を結成、またボーヒュスレーン・ビッグバンドにもレギュラーベーシストとして参加。デュオからビッグバンドまでをこなすベース奏者として定評を得る。1989年にはスタン・ゲッツのヨーロッパ・ツアーにケニー・バロン、ベン・ライリー等とともに参加。1992年からトゥーツ・シールマンズのスカンジナビアン・カルテットに起用される。1998年、ストックホルムが欧州文化首都となった記念事業の一つとして注目を集めたワールドミュージックグループ、『ストックホルム・フォルク・ビッグバンド』に参加。

### ♪ 福田重男 (ピアノ)

1957年5月8日生まれ、前橋市出身。3~4歳からクラシック・ピアノを始める。大学在学中にジャズ・ピアノを志し、辛島文雄氏に師事。1980年、プロ・デビュー。1957年5月8日生まれ、前橋市出身。3~4歳からクラシック・ピアノを始める。大学在学中にジャズ・ピアノを志し、辛島文雄氏に師事。1980年、プロ・デビュー。

1982年、神崎オン・ザ・ロードをかわきりに、ジョージ・大塚マラカイボ、秋山一将グループ、鈴木良雄 MATSURI、植松孝夫グループ等を経て、1989年のアルバム「サファイア」より MALTA HIT&RUNに参加。94年のアルバム「星に願いを」までアルバムやジャズ・フェス等で活躍。1990年、向井滋春グループに参加、アルバム「向井オン・ザ・ウイング」を残す。1996年、韓国を代表するサックス奏者、イ・ジョンシユクのアルバム「コラボレーション」に三好功(g)らと参加。ジャズ・ロック・グループ「PARADOX」のレギュラー・メンバーとしても活躍(1997年アルバム「PARADOX II」をリリース)。1999年のジャズ・チャートでヒットした布川俊樹(g)プロデュースの「ウルトラマン・ジャズ」、「帰ってきたウルトラマン・ジャズ」(2000)、Phat「タイタフ」(2003)、フロントページ・オーケストラ「ハーモニー・オブ・ザ・ソウル」(2004)、菊地康正「マイ・スパニッシュ・キー」(2006)などのアルバムに参加。この間に、松本英彦、渡辺貞夫、日野皓正、日野元彦、山口真文、大友義雄、土岐英史、古野光昭、水橋孝、道下和彦、五十嵐一生、phat、チャリート、大野えり他数多くのミュージシャンと共演。

また歌伴にも定評があり、野間瞳「Hitomi sings Emily」(1997)、加藤アオイ「4人のグラン・パに100年目のトリビュート」(1998)、原久美「緑の島」(2000)、同「ボア・ノシチア」(2001)、祐生薫「ビター・スイート」(2004)、梶原まり子&橋本信二「Gate One」(2005)などに参加。異色作として、新進のバレリーナ菊地美樹とのコラボレーションから生まれた、ソロ・ピアノ・アルバム「パレエ・ミュージック」(2000)(vics-60077)がある。

1998年1月、待望のリーダー・アルバム「フレッシング」を発表。ニューヨーク録音のピアノ・トリオもので、ロン・カーター(b)、ジョー・チェンバース(dr)との共演盤(King Record KICJ328)。同年3月、アイラ・コールマン(b)、ジョー・チェンバースとのトリオで福岡ブルーノートをはじめ全国ツアーを行う。仙台でのコンサートはケーブル・テレビに実況録音され、各地で放映された。2002年6月、2ndアルバム「INNER VIEWS」(インナー・ビューズ:MTCJ-1038)を発表する(同3月ニューヨーク録音)。チャネット・モフェット(b)、アル・フォスター(dr)とのピアノ・トリオもので、同アルバムは、JazzLife 誌上ディスクグランプリ2003において、「Jジャズ・ベスト15」に選出された。2003年5月27日、福田重男トリオ初のライブ・アルバム「福田重男トリオ+1 布川俊樹: Live @ Body & Soul (小杉敏(b)、セシル・モンロー(d))」をDVDとCD同時発売。現在は自己のトリオの他、藤陵雅裕4、三木俊雄フロント・ページ・オーケストラ、河原秀夫ペンタグラム、橋本信二などのグループで活躍中。

また、Jazz Life 誌上において、1989年から1993年まで「月間スタンダード」の講師を務め、その広範な知識と洒脱な文体は、多くの読者を惹きつけ、人気が高かった。これをアルバム化した「コンテンポラリー・スタンダードス」(1992)では、ビーター・アースキン(dr)、マーク・ジョンソン(b)と共演している。このセッションの別テイクが、1999年1月「ザ・トウキョウ・セッション」として発売される。その後「スペシャル・ピアノ・アレンジ」として、2005年まで16年の長きにわたって同誌連載された。1997年より現在に至るまで、ヤマハミュージックの講師として、後進の育成にも務めている。音色の素晴らしさとリズム感には定評があり、そのみずみずしい感性に裏打ちされたリリカルで確かなピアノ・サウンドは、多くのミュージシャンから信望を集めている。